

「心を留めるべき事」

ピリピ4：8-9

堀田修一 22・3・6

- I 8節は、生活全般に広がる一般的勧告。「心を留め（続け）なさい」。原語:評価、判断する、と見なす、熟考する、心に留めるべきもの＝
1. 「すべて真実（原語：真理、真実、誠実）なこと」。真実な事の根本的な土台は、真理、真実そのものであられる主ご自身と神の御言葉。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」（ヨハネ14：6）。「真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です」（ヨハネ17：17）。真実な主と交わり、真実な御言葉を日々読み味わい養われる時、嘘、惑わし、聖書の教えの真理、真実な事は何かを判断し、それらに心を留める。「というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです」（Ⅱテモテ4：3-4）※教理の大切さ。
 2. 「すべての尊ぶべき（原語：尊敬すべき、立派な、謹厳な、気高い）事」。同じ言葉の個所：「執事たちも、品位があり、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を求めず、きよい良心をもって、信仰の奥義（教理）を保っている人でなければなりません」（Ⅰテモテ3：8, 9）。それらのものは、行動と心を見ておられる神（真の誉れがあり、尊敬に値する方、謹厳な気高い方）の目の前に生きる事から生まれる。どこにおいても、神は見ておられ、そこに主が共におられることを認め、主の証し人、主の香りを放つ者として仕え生きる。
 3. 「すべての正しい（原語：正しい、正義の、公正な）こと」。自分が勝手に正しい、正義と思い込む事ではなく（10人いれば10の見方、視点、考え方の正義が生まれる。私達、不完全な者は、自分の立場で物事を見、捉える限界がある事を認め、謙遜に神の目に正しい事は何か祈り求めたい）神の前に正しい事、正義は何かを識別する。「人の怒り（義憤）は神の義を実現しないのです」（ヤコブ1：20）。「主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません（先走って自分流の正義をふりかざしてはならない）。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます」（Ⅰコリント4：5）。「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」（ピリピ1：9, 10）。御言葉がはっきり語っていない事柄の話し合いでは、自分の意見、主張だけが絶対に正しいと固執してはならない。※コロナ（必要な対策をしつつ、マナーを守りつつ）・ワクチンへの対処、考え方。他の人の意見をさばかず、違いを認め合う。自分の考えを人に強要しない。分断を生まないように→「その意見をさばいてはいけません。…それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい」（ローマ14：1, 5）。みことばを自分に向けて読まず、人を攻撃するために聖なる御言葉を人に向け、乱用してはならない。「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれている者と思いなさい」（ピリピ2：3）。真に正しい事を求める人は、互いに、互いの意見を謙遜に聞く耳を持ち、御心を祈り求める人。

4. 「すべての清い（原語：聖なる、清い、罪汚れのない、純潔な、潔白な）こと」。「他人の罪にかかわりを持ってはなりません。自分を清く保ちなさい」（Ⅰテモ5：22）。「神のみこころは、あなたがたが聖なることです。あなたがたが、不品行を避け」（Ⅰテサ4：3）。眞の清さ養う為に→日々読み味わう御言葉、礼拝での御言葉、内住の御聖霊の働き、自分の弱さを認め、油断せず祈る。自分を汚す所、自分が誘惑に負け易い事、所に近づかず、神に近づく。いつかはわからないが、自分が主の御もとに行く日と聖い主が再び来られる日が、一日一日近づいている事を深く自覚して生きる。「キリストに対するこの望み（主が現れたら私達は主に似た者に変えられる）をいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします」（Ⅰヨハネ3：3）。眞に清いお方は、主ご自身。このお方を信仰の目で見つめ続ける時、私達は、清くされる。
 5. 「すべての愛すべき（原語：愛される、愛すべき、喜ばれる）こと」。眞に愛すべき方は、主ご自身。まず、この方と深く交わる時、眞に愛すべき事を教えられる。
 6. 「すべて評判の良いこと」。心では悪い策略を持ったまま、外側の行動だけ良い評判を得ようとするのではなく、神と人に眞実に仕える事による評判。
 7. 「何か徳（原語：善い行状、徳、光栄ある事績、奇蹟、神の力、威力）とされること」：8。同じ言語の箇所。→「あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためです」（Ⅰペテロ2：9）。
 8. 「称賛に値すること」。眞に称賛に値することを教えてくださるのが主。それゆえに学ぶべき主から、旧新約聖書全体から忠実に教える牧会者から学ぶ必要がある。
- Ⅱ 「あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行ないなさい」：9。これを語ったパウロは天に召された。私達は、今、主と主の御言葉（使徒達が天に召された後、完結した66巻の聖書。それに記されている主の足跡、模範、パウロが語った事、模範を含む）から学び、受け、見る事が大切。自分のやりたい事を勝手に行なうのではなく、まず、主に「心を留め」、主と御言葉から学び、聞き、主を信仰の目で見たい。そして、学び、聞いて終わりではなく、内住の素晴らしい助け主なる御聖霊に頼って（自分の力では無理）、御言葉を実行する事ができますように。「みことばを行なう人になりなさい。…ただ聞くだけの者となつてはいけません」ヤコブ1：22。「わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます」（マタイ7：24）。「わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように、彼らを教えなさい」（28：20）。「これらのこと（互いに足を洗い合うべき＝仕え合うべき）が分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです」（ヨハネ13：17）。神の喜ばれる事を知っている、聞くだけで、それを行わないなら神の祝福を体験する事はできない。但し、御言葉の実行は、自分の力では無理。実行できる力を与える為に、ご聖霊が、主を信じる人たちの心の中に住んでおられる。ご聖霊は、私達と心で親しく交わり、御言葉を喜んで行う力を与えて下さる。祝福：「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり（みことばを行う新しい命・力が与えられる交わり）が、あなたがたとともにありますように」（Ⅱコリント13：13）

Ⅲ みことばを「行ないなさい」→「そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます」：9。御言葉を、聞くだけでなく、御聖霊の助けにより、日常生活の中で、実行する時、平和の神が、ますます、共におられる恵み、そば近くにいて下さる祝福を感じる、体験する恵みにあずかる。これは最高の祝福！罪を隠し、神に悔い改めないなら、御聖霊は、悲しまれ、そば近くにおられる豊かな臨在は消される。神が遠くに感じられる。罪を悔い改める事をしない事により「神の聖霊を悲しませてはいけません」エペソ4：30。「御霊を消してはなりません」Ⅰテサロニケ5：19。

祈り：真に良いもの、神の喜ばれるもの、神の目に価値あるものに心を留めることができますように。主の御言葉を正しく学び、受け、聞き、聞いて終わりではなく、①自分の罪を悔い改め②主の喜ばれる事を内住の御聖霊に頼って実行することができますように。辛い事で心の平安を失い易く、また自らの罪により聖霊を悲しませ、平和の神の素晴らしい臨在を遠ざけてしまう私達を赦し助けて下さい。弱く、罪深い私達の罪の為に主が十字架で死なれ、罪の赦しと新しい命と悔い改めの心と真の平安を与えて下さる恵みを心から感謝します。